

「証券コードへの英文字組入れに係る『具体的な設定方法』の見直し案」に寄せられたパブリック・コメントの結果について

2022年3月31日

証券コード協議会

証券コード協議会（以下「当協議会」という。）では、証券コードへの英文字組入れに係る『具体的な設定方法』について、その見直し案を2022年2月16日に公表し、3月16日までの間、広く意見の募集を行い、その結果、3件のコメントが寄せられました。

本件に関してお寄せいただいたコメントの概要及びそれに対する当協議会の考え方は、以下をご覧ください。

番号	コメントの概要	コメントに対する考え方
1	・ 顧客周知とテクノロジー影響調査のため、実施時期の発表から実際の実施までの期間は長めにとっていただきたい。	・ 当協議会は英文字の使用開始時期の設定にあたって、コード利用者の対応期間を確保し、2024年1月1日以降に付番するコードから英文字を使用開始することとしました。
2	・ 銘柄コードの5桁目は新株などの種類株の識別として利用しているため、銘柄コードの5桁目に英字が使われないことを確認したい。	・ 株式銘柄コードは、4けたの固有名コード及び1けたの予備コードから構成されます。今回の対応は、付番可能な残コード数を確保するため、固有名コードの2けた目及び4けた目並びに予備コードに英文字を使用可能とするものです。
3	・ 予備コードの英字採番にあたっては、新しい種類の株式や権利種別が発生するということを想定していると考えられますが、その場合にはその新しい種類の株式や権利種別の組入れについて会計処理等の検討、システム対応が必要となりますので、相応の準備期間を考慮した上での事前アナウンスをお願いいたします。	・ ただし、予備コードに英文字を使用する場合は、「株式及び公社債銘柄コードの設定、変更及び削除に関する取扱い要領」を改正し、コード利用者の対応期間を確保したうえで実施します。

提出者：1、2＝楽天証券株式会社 3＝株式会社野村総合研究所

以 上